

水道イノベーション賞受賞団体及び取組概要

団体名	岩手中部水道企業団
取組名称	岩手中部地域水道事業における用水供給と末端給水の垂直・水平統合による広域化
抱えていた課題	<p>岩手中部地域の北上市、花巻市、紫波町の水道事業は、人口減少による給水量の伸び悩みが顕在化し、これに伴う収入減少が予測され、また、各施設や管路の老朽化も進んでいた。紫波町では慢性的な水不足に悩まされている一方で、用水供給事業の旧岩手中部広域水道企業団は浄水場の供給能力の50%程度しか稼働していなかった。</p>
取組概要	<p>平成14年2月の企業団議会での「広域化について検討すべき」という提言を受け、平成16年1月に企業団と構成団体の職員による「岩手中部広域水道事業在り方委員会」を設置。平成18年3月には「広域化は経営の安定化や効率化に大きな効果をもたらす」という結論に至った。</p> <p>これを受け、平成19年に「地域水道ビジョン策定検討委員会」を立ち上げ、平成21年には企業団と北上市、花巻市、平成22年には紫波町が岩手中部の広域化を目指すという共通目標を掲げた水道ビジョンを策定。平成22年1月には厚生労働省から広域化施設整備の新たな国庫補助メニューが示され、広域化に向け大きく前進した。</p> <p>平成23年5月には「広域化推進協議会」を設置し、より具体的な検討に着手。同年10月には統合に関する覚書を締結し、国庫補助を活用した広域化施設整備事業を開始した。</p> <p>平成24年4月には統合準備室を設置し、アセットマネジメントを基礎とした料金水準の設定や組織体制など、統合に向けた具体の検討に着手。平成25年10月に統合に関する基本協定を締結し、岩手中部水道企業団設置許可を申請、同月中に許可された。</p> <p>平成26年2月に第1回議会を開催、4月1日から岩手中部水道事業を開始した。</p>
取組による効果	<p>5課72人体制、このうち各事業体から移籍した65人がプロパー職員。直営職員を確保したことで確実な技術継承を行うことができる基盤を構築した。今後、更新事業の推進と浄水場の建設やループ幹線の整備を進めていくことで、水道システムの安定性も向上する。将来の水道事業の安定的持続を見据えた広域化の先行事例として全国的に注目を集めた。</p>
受賞理由	<p>本取組は、企業団及び各市町の水道職員を構成メンバーとする「岩手中部広域水道事業在り方委員会」等、構成職員の議論を軸に、長年の努力の結果、事業統合というハードルの高い施策を成し遂げられた。</p> <p>また、老朽化施設の更新、技術継承等、水道事業の将来を見据えた広域化として、新水道ビジョンで掲げる「安全・強靱・持続」の確保という水道の目指すべき方向性にも合致し、今後、全国の水道事業体が新たな取組に着手する先進事例として、本賞設置の趣旨に沿うものである。</p>